

モンタナ州立大学短期研修報告書

文学部 英語英米文学科 2年 寺田 佳加

1. 研修について

今回の研修では1年生4名、2年生4名の計8名が、2月18日から3月20日の約1ヶ月間を、アメリカ合衆国モンタナ州ビリングスで生活しました。

2. 学校について

研修中に通う学校は、協定校であるモンタナ州立大学ビリングス校です。学校生活初日にその時点での英語の実力を測るテストが行われ、その結果によってクラスが割り振られました。先生は英語のネイティブスピーカーで、もちろん授業は全て英語で行われます。州立大学の学生に加え他国からの留学生も参加しますが、授業は少人数で行われるため、先生と生徒間のコミュニケーションが重視されます。私のクラスは日本人4名、ミャンマーからの留学生1名、イエメンからの留学生1名でした。他国の留学生は英語のリスニング能力やスピーキング能力に優れ、先生との会話も流暢です。そのため、意識して参加に臨まないと置いて行かれることとなります。時には、会話についていけなかったり、単語が分からなかったりすることがありますが、実はその時こそ発言のチャンスです。何を話しているのか、その単語の意味は何か、といったことを聞くのです。アメリカの授業は日本とは異なり、教師と生徒の相互的なやりとりで展開されていくため、分からないことを素直に伝えることで授業に積極的に参加することが大切だと学びました。

また、全て英語で授業を受ける中で気づいたことがあります。英語を英語で学ぶことは困難である一方で、英語という言葉をも深く理解するには最適の方法であるということです。そのため、英英辞書を使ったり、先生方から紹介していただいた英語表記の教材やサイトを活用したりと、帰国後も英語による英語の学習を続けています。先生方がメールを通して、留学中の学習をその後も継続できるようサポートしてくださるのもこの研修の魅力です。

<主なスケジュール>

◆月曜日から木曜日は授業。先生は午前と午後で変わる。共通して積極的な参加が重要。

午前中：リスニング スピーキング (9時から11時)

毎回、新しい体験や疑問点についての簡単な会話から始まる。

午後：ライティング リーディング (12時から14時)

毎週月曜日には単語の定義や例文を英語で答える単語テストが行われる。

有名な歌の歌詞に使われている単語の分析や発音法(母音・子音の発声法など)を学ぶ。

14時~17時：プレゼンテーションの講義・アクティビティ・自由時間など

(アクティビティ：ペインティング・異文化交流・他校訪問など)

◆金曜日は一日中アクティビティ。学術的なことから離れてアメリカの文化を学ぶ。

ショッピング、美術館訪問、クライミング、クッキングなど

◆土曜日と日曜日はホストファミリーと過ごす時間。

3. ホストファミリーについて

平日の学校のない時間や休日はホストファミリーと過ごせる貴重な時間です。ホストファミリーと出会う前は緊張や不安などが多少あると思います。しかし、1ヶ月間ホストファミリーと過ごした私が自信を持って言えることは、彼らはアメリカの家族であり、留学生を同じ家族として愛してくれるということです。もちろん、ネイティブ同士の会話や話題に参加できなかったこともありましたが、スマホや部屋に逃げた方が楽に思われる時もありました。しかし、そういう時こそホストファミリーの側に居続けるのです。私は、部屋で過ごした時間は寝るときや宿題をするときだけで、他は基本的にファミリーと一緒にいました。お互いにどう話していいのかわかっているのは同じだったと知ったときは、もっと素直になれていればと後悔したほどです。一緒に過ごすうちに自然と打ち解けていったので、なるべく彼らと時間や空間を共にすることを心がけてよかったと思います。

一番思い出に残ったことは、家族でイエローストーンに出かけたことです。世界遺産は美しく心に残るものではありましたが、同時に、旅の道中もかけがえのない思い出として残りました。行く時には McDonald に寄って朝食を食べ、車の中ではマックシェイクを飲みながらファミリーと話し、帰りにはイエローストーンで見た動物の絵を描き、姉弟と見せ合い、日本の文化を紹介し、というように素敵な時間を過ごしました。片道3時間という長距離でしたが、言語の壁を乗り越えた家族の絆を体感できた貴重な時間でした。

4. 留学中意識したこと

留学中私が常に気をつけたことは、コミュニケーションを積極的に取ることと、分からないことは人に尋ねるということです。私は内気な性格で、加えて英語も学習中の身であり、言語の違いも大きな壁として存在していました。それゆえ、何度も自分に、何のために今アメリカにいるのかを問いかけたのです。考えてみれば、私たちが英語を上手く話せないのは当然です。話せないからこそ、話せるようになりたいからこそ、学びに行くのです。そう意識してからは、些細な気づきや経験も英語で語り、分からないことがあれば分からないと口にするようになりました。また、日常生活での分からない事柄はメモを取り、ファミリーや先生に聞くようにしていました。簡単なことでも、スマホで調べられることでも、英語で人に直接聞くことが大切です。苦労して学んだ内容は深く頭に残り、何よりも英語で会話できたという達成感が学びの喜びとなり、大きな自信につながったと思います。

5. 留学前の準備

過去に研修を経験した人の報告や話を聞くと、多くの人が積極性が大事だというでしょう。そのことは、私も賛同します。しかし、いくら積極的な発言が大事と認識したところで、その行為が難しいことには変わりありません。積極性に欠けたという失敗談をここに綴らないようにするため、私は留学前に、大学の英文科を中心に他学科も交えて行われる英語での討論会に参加していました。留学前に意見の主張に慣れておくか否かは大きな違いとな

るため、積極的にそういった機会を見つけ、参加することは重要な準備となるでしょう。また、日本のニュースや文化を知っておくことは大切です。私たちが研修中は新型コロナウイルスが大きな社会問題であったため、日本のコロナ感染状況や国のコロナ対策についての意見を多く尋ねられました。また、モンタナは自然や野生動物が有名である一方、日本には川辺に動物はいるのかといったことも聞かれました。政治や文化に加え、日本の生態系や生活環境など、広い分野を日頃から気にしておくべきだったなと思います。

6. 終わりに

1ヶ月の留学で英語をマスターすることは、普通に考えれば不可能なことだと思われるでしょう。しかし、1ヶ月間というのは、英語を極めるために重要な期間であることは間違いありません。1ヶ月前と後で私の中で大きく変わったことは、英語を使う姿勢です。留学中に私は、会話が苦手な自分から英語での積極的な発言が好きな自分へと変わりました。「好きこそ物の上手なれ」です。この1ヶ月間で私は英語がさらに好きになり、英語を使う人々との交流は英語を学ぶ喜びとなりました。これからの私の英語の学習はきっと大きく前進するでしょう。本研修に携われた全ての方々に感謝の意を表します。ありがとうございました。

<研修中の写真>

◆アクティビティの様子

左 : 異文化交流
(おにぎり・味噌汁紹介)

右 : クッキング "Pastie"

